

はしがき

大学が、これまで教育と研究を通じて、社会の発展、国民の福祉向上に寄与・貢献してきたことは、広く社会で認められています。知識社会の到来とともに、今後も、大学が既存の役割を果たすとともに、さらに発展することが社会で期待されています。

しかし、多くの国々で、大学の教育・研究の持続的発展を支える公的支援の少なさが指摘されています。同時に、大学にはアカウンタビリティ（説明責任）が求められるようになりました。大学は、その使命を達成するために、少ない資源をより一層効率的・効果的に配分・使用する管理・経営が求められているのです。

そのため多くの国で、過去20年以上にわたって、政府の規制緩和、機関の自律性の強化、アカウンタビリティの向上、学長のリーダーシップ強化、ガバナンスの変革、ニューパブリックマネジメントの導入などの掛け声の下、様々な大学改革が実施されてきました。そして、ある改革は意図された成果を残し、他方、意図したのとは異なる結果がでた改革もあります。こうした経験の蓄積は貴重なものであり、いまや国際的に共有し、比較検討する時期に来ているといえます。

そこで、国立大学財務・経営センターでは、平成21年1月26日に、国際シンポジウム「高等教育システムの改革とその結果」を開催いたしました。オーストラリア、ポルトガル、アメリカ、中国、デンマーク、日本の高等教育研究者や大学管理者から、自国および自国を取り巻く広範な地域における、大学へのファンディングや資源配分、ガバナンス、業績管理、そうした改革の背景にある高等教育政策や政府の施策ツール、その他の重要な改革動向に関する報告が行われ、続いて行われたシンポジウムでは、会場からの質疑応答も交えて、議論をいっそう深めることができました。

このたび、本シンポジウムの内容を報告書を取りまとめ、高等教育に関連する皆様の参考に供することとしました。当センターでは今後とも国立大学等の財務及び経営に資する調査研究や情報提供を行って参りますので、宜しくお願い申し上げます。

平成21年3月

国立大学財務・経営センター
理事長 遠藤昭雄

国際シンポジウム『高等教育システムの改革とその結果』

高等教育研究者や大学関係者など多数ご出席をいただき、国際シンポジウム『高等教育システムの改革とその結果』を開催しました。諸外国の大学改革の現状を聴く貴重な機会となりました。



主催者挨拶
遠藤 昭雄
(国立大学財務・経営センター理事長)



日本の国立大学の改革
山本 清
(国立大学財務・経営センター研究部長)



日本の国立大学の改革
水田 健輔
(国立大学財務・経営センター准教授)



欧州の高等教育における最近の動向
アルベルト・アマラル
(ポルトガル / ポルト大学教授
兼 高等教育政策研究センター長)



中国の高等教育：その拡大と差別化
王 蓉
(中国 / 北京大学中国教育
財政科学研究所所長)



米国の高等教育における生産性の課題：
機会・負担・品質をバランスさせるために
デイビッド・ライト
(アメリカ合衆国 / テネシー州高等教育委員会
政策・計画・調査研究担当副ディレクター)



北欧諸国の高等教育に対するインパクト
エバンシア・シュミット
(デンマーク / オーフス大学デンマーク
科学技術研究政策研究センター准教授)



アジア太平洋諸国の高等教育システム改革
サイモン・マージンソン
(オーストラリア / メルボルン
大学高等教育研究センター教授)



パネルディスカッション

【司 会】



丸山 文裕
(国立大学財務・経営センター教授)



川嶋 太津夫
(神戸大学教授)

【ディスカッサント】



アルベルト・アマラル



王 蓉



デイビッド・ライト



エバンシア・シュミット



サイモン・マージンソン



水田 健輔



閉会挨拶

吉田 靖
(国立大学財務・経営センター理事)